

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間:2020/09/01 ~2020/9/30)

1. 勉学の状況

2020年9月1日からアルバータ大学の授業を受講しています。新型コロナウイルス感染拡大による社会状況の悪化に伴い、カナダへの渡航は中止となりました。しかし、アルバータ大学もほぼすべての授業をオンラインで実施することなので、日本からオンラインで授業を受講しています。1月からのWinter Termで社会状況が良くなれば、カナダに渡航して留学を続けようと思っています。初回の報告書なので軽く自己紹介したいのですが、そちらは生活の状況の方に書きたいと思います。

私はFall Termで2つの授業を受講しています。

1.Introduction to Linguistic Analysis (LING 101)

このコースでは、言語学に関する内容を幅広く学びます。LING101の101という数字は授業の難易度を示しており、数字が大きくなるにつれて難しい内容を扱うこととなります。このコースは101なので最も入門的な内容となっており、一緒に受けている受講生もアルバータ大学に入学したての学生が多くなっています。Zoomで100人弱が一斉に授業を受けるような状況ですが、インストラクターのマリーナ先生が丁寧に説明してくれるので、安心して受講できています。内容的には、9月はSemantics(意味論)を中心に学びました。私は千葉大学で言語学の内容もすでに学んでいたため既習の内容も含まれていましたが、このコースではさらに奥深い内容を学んだり、他の言語の例として日本語が出てきたりと、別の視点から意味論を学びなおすことができ、楽しく受講しています。1番おもしろかったのは、「日本語では英語と比べて敬語表現が多く見られ、『ビール』を丁寧な表現にすると『おビール』になるんだよ」という日本語の例が出てきたことです。評価は約3週間ごとに行われる小テストがメインになるので、継続して勉強していきたいと思います。

2.Introduction to the Teaching of English as a Second Language (EDPY 416)

このコースでは、英語の教授法についての内容を学びます。416と難易度が高めの授業で、30人くらいの受講生は大学院生や4年生などが多く、たくさんの知識に触れることができ大変勉強になっています。インストラクターのケント先生は、日本で10年間英語を教えていた経験があり、実践的な内容も多く含まれています。この授業ではLING101とは違い、Zoomのブレイクアウトルーム機能を使ったディスカッションが多く行われ、英語力が未熟な私はなかなか話についていけず苦勞することも多いですが、いろいろな学生たちと話す中で日本の英語教育がどう見られているかということを知ることができ、大変勉強になっています。

2. 生活の状況

生活の状況は、日本にいますのであまり変わっていません。しかし、2つの授業は両方Zoomの同時双方型での受講となっているので、時差による生活リズムの乱れが深刻です。①LING101は火・木の週2でカナダ時間11:00~12:20、②EDPY416は火の週1でカナダ時間17:00~20:00なのですが、①は日本時間で深夜2:00~3:20、②は日本時間で8:00~11:00となっているので、少し大変です。

初めての報告書なので自己紹介をしたいと思います。

私は、千葉大学/教育学部/中学校教員養成課程・英語科教育分野に所属する3年生の学生で、将来高校の英語教員になることを目指しています。千葉大学に入学してからの2年半で、言語学や英語教授法、教育に関する心理学や法律などを学んできました。

私が留学をしたいと思った理由は、優れた英語教員となるため、第二言語習得論や言語学、TESOLをより深く学びたいと感じるようになったからです。また、日本の英語教育界は現在大きな変化の時期を迎えています。海外の視点から日本の英語教育を見直すことは非常に有意義であると考えたからです。

本来は2020年9月からカナダに渡航し、いろいろなことを体験したいと思っていましたが、社会状況の悪化により、残念ながらそれは叶わなくなってしまいました。しかし、海外留学支援室の方々のサポートのおかげで、異例のオンライン留学を実施できております。このような機会を得ることができたことに感謝し、このオンライン留学での学びを充実したものにできるよう頑張っていきたいと思います。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間: 2020/10/01 ~ 2020/10/31)

1. 勉学の状況

10月に入り、授業の進み方やオンライン授業独特の雰囲気などにも慣れ、勉強に集中できるようになってきました。受講している2つのコースについて10月にあったことを書きたいと思います。

1. Introduction to Linguistic Analysis (LING 101)

この授業は4~5週の講義の後に小テストという規則正しいリズムで進んでいくので、とてもやりやすく感じています。10月は主に音韻論(Phonology)の講義で、私は千葉大学の授業で音韻論を叩き込まれていたのですが、これまでの最高得点である90点をたたき出すことができました！英語の母語話者も多くこの授業を受講しているようですが、音声学や音韻論は母語話者にとっても難しいようで平均点が70点と、意味論の平均87点に比べると低い結果となっていて、おもしろいなと感じました。次は形態論(Morphology)の内容に移っていくので、とても楽しみです。

2. Introduction to the Teaching of English as a Second Language (EDPY 416)

10月の前半には中間試験が行われました。日本で受けてきたような知識を問うような試験ではなく、授業で学んだ英語の教授理論の1つを用いて自分なりのアクティビティを考えるという問題など、思考力が問われるようなものでした。

また、この授業では、1人1回、3~4人1組になって論文の要約をグループでプレゼンしなければならないのですが、私のグループの番が10月28日に回ってきました。これまでディスカッションなどでも自分の意見をうまく伝えられていなかったり、授業内容も難しいと感じていたりしたので、同じグループメンバーにも迷惑をかけないように入念に準備してプレゼンに臨みました。まだ先生からのフィードバックが返ってきてはいませんが、個人的な手ごたえは良く、グループメンバーからも「Good job!」と言われて達成感を味わうことができました。また、オンライン学習でなかなか友達ができていなかったのですが、このグループプレゼンを通して中国からの留学生で日本のこともよく知っている学生と仲良くなり、よくチャットで話すようになったことも大きな収穫となりました。

2. 生活の状況

2. 生活の状況

日本で生活しているので、生活の状況について特記することが見当たらないのですが、オンライン留学という観点から書いていきたいです。

アルバータ大学のオンライン授業はZoomでの講義をベースとして進んでいきます。提出課題やテストがこまめにあるので、自分の中でのスケジュールをしっかりと立てて学習を進めていくことが大切かなと思います。また、日本でオンライン受講しているからこそその良い点というものも感じられるようになってきました。例えば、オンライン授業で学んだ内容をもう一步深めたいと思ったら千葉大学図書館で本を借りて日本語で勉強することができます。よく理解しないまま授業が進んでしまう前に、自分でカバーできるのでとても便利に感じています。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間:2020/11/01 ~2020/12/20)

1. 勉学の状況

9月から受講していた秋学期の2つのコースが12月19日のテストをもって終了しました。オンライン受講という形態で不安も多々ありましたが、無事に秋学期をやりきることができたことにほっとしています。2つのコースについて書きたいと思います。

1. Introduction to Linguistic Analysis (LING 101)

11月から12月にかけては形態論(Morphology)と統語論(Syntax)の内容を学びました。4カ月の中で言語学を5分野に分けて学んでいく授業でしたが、統語論は特に興味のある分野だったので楽しみながら学ぶことができました。授業の雰囲気にも慣れ、資料や教科書の活用方法、Zoomのレコーディングを再度確認しながらの学びなど、効率的に勉強する方法が身に付いてきたと感じます。12月前半には講義が終わり、12月19日にコース全体の内容をカバーした最終試験に臨みました。このコースは最終試験の点数だけで50%の評価をするものだったので、講義が終わってからの2週間は毎日復習の勉強に追われていました。最終試験ではまずまずの点数をとることができ、海外のコースをやり切った自信がつかしました。

2. Introduction to the Teaching of English as a Second Language (EDPY 416)

このコースでは、ディスカッションが頻繁に行われたり、11月にはゲストティーチャーとしてカナダの教育機関で働いている方からお話を聞く機会があったりと、いろいろな方向から学びを深めることができました。12月2日には最終試験が行われました。LING101の最終試験ではまずまずの点数を取ることができましたが、EDPY416の試験は想像を絶する難しさで自分の勉強の甘さが浮き彫りになってしまいました。問題の内容は教科書の細かいところだったり、様々な学習内容を複合して考えたりするなど難しいものでした。さらに、問題の量がとても多かったので2時間の試験時間で最後まで終わらせることができませんでした。Winter Termでは難しい授業も増えるので、次回の試験ではより準備をしっかりして臨もうと思います。

2. 生活の状況

新型コロナウイルスの感染拡大により、9月からの渡航は断念し日本からアルバータ大学のオンライン授業を受講していましたが、社会状況が良くなれば1月からのWinter Termから渡航することを計画していました。しかし、感染拡大は止まらず、今カナダに渡航することは危険と判断したので、Winter Termも引き続きオンライン受講することを決定しました。Winter Termに受講する授業は下記の3つです。

1. Grammar of English for Teachers of Adult ESL (EDPY 417)

本コースでは、英語指導の際の文法指導について学びます。明示的な文法知識を発展させる方法や、大人の学習者にとって大切な文法項目、文法重視の授業の組み立て方などを学んでいきます。インストラクターはLeila Ranta先生です。

2. Methodology in the Teaching as a Second Language to Adults (EDPY 418)

本コースでは、近年の英語学習者のニーズにこたえるために、英語の指導理論、指導技術、指導案作成方法、教材選び、学習者の評価などについて学びます。インストラクターはFall TermのEDPY 416に引き続き、Kent Lee先生です。

3. Second Language Acquisition (LING 320)

本コースでは、言語の特性、言語の問題、バイリンガリズムの心理言語学的側面など、第二言語習得における理論的問題への言語学の応用について学びます。インストラクターはFall TermのLING 101に引き続き、Marina Blekher先生です。

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間:2020/12/20 ~2021/4/24)

1. 勉学の状況

1月からWinter Termが始まり、留学も後半戦に入りました。秋学期は2つのコースを受講していましたが、冬学期では3つのコースを受講しました。それぞれのコースについて書きたいと思います。

1. EDPY 417: Grammar of English for Teachers of Adult ESL

この授業では、英語の文法や、文法の教授法を学びました。この授業を担当してくださったのはLeila Ranta先生という、第二言語学習でのフィードバック研究で著名な方で、留学前からRanta先生の授業を楽しみにしていました。授業内容は、ほとんどが英語の文法に関するもので、5文型やそれぞれの品詞の特徴などを学びました。中学・高校で文法は詳しく学んだつもりでしたが、はるかに深いところまで講義で扱っていて、とても楽しく授業を受けることができました。Ranta先生は、英文法の大切さを授業内で強調していて、現在の日本で英文法指導が避けられる風潮について考えることができました。

2. EDPY 418: Methodology in the Teaching of English as a Second Language to Adults

この授業は、秋学期に受講したEDPY 416と同じKent先生がご担当くださり、引き続きカナダの第二言語学習者に向けた英語教授法について学びました。EDPY 418では、秋学期よりもより実践に近い内容を学ぶ機会が多く、英語で学習指導案を書いたり、教室の中ではどのような問題が起きるのかを話し合うアクティビティがあったりと、カナダの英語教授法と日本の英語教授法を比較しながら受講することができました。

3. LING 320: Second Language Acquisition

この授業は、秋学期に受講したLING 101と同じMarina先生がご担当くださり、第二言語習得理論について学びました。1つの授業ごとの内容がとても濃く、予習が大変でしたが、第二言語習得についての知識を深めることができました。

2. 生活の状況

すっかりオンライン留学のリズムにも慣れ、計画的に学習を進めることができました。しかし、秋学期と比べて冬学期は授業数が増え、難易度も上がったので、常に予習や課題、テスト勉強に追われていたように感じました。特に3月、4月は中間試験、期末試験、レポートの最終課題などが重なり、特に勉強が大変でした。EDPY 417の最終レポート課題では、総ページ数が30ページを越し(ほとんどがAppendixですが)、海外の授業のすさまじさを感じました。つらい印象ばかりを与えてしまっているかもしれませんが、その分確実に力がついているという実感があり、留学が終わった今は非常に満足感を感じています。オンライン留学になってしまったことを残念に思うこともありましたが、留学を終えた今は、できる範囲の中で最大限のことを学べて、良い8か月間になったなと感じています。